

【彩の国コミュニティシネマ普及・促進事業】

- 行政担当課との課題のすり合わせや事業の進行過程での連絡等、協働事業の特質を踏まえた事業運営を展開したと思われる。街中の映画館での興行は、いわゆるシネコンとのすみわけを意識することで順調に推移したとみられる。協働の成果を確実に挙げたものとして評価できる。
- 地域映画の復活を通してコミュニティづくり、そこから地域起こしへと発展させるモデル事業はすばらしい活動であると思いました。また川越では、地域商店街が映画館を復活させるための組織を立ち上げたというように、広がりが出てきており効果は高かったと思います。今後今回のモデル事業が埼玉県内で本格的に広がっていくためには、行政との連携による活動が重要と考えられます。県として、どのようにサポートしていくのか、またNPO活動としてどのような面的広がりをもたせていくのか今後の課題と考えます。地域起こしのツールとしての街の映画館というだけでなく、映画館が社会的な情報を発信するためのツールとして機能できるよう、今後のより一層の活動を期待したいと思います。
- 「街なかの映画館」をキーワードにして「街づくり」「地域づくり」「空き店舗対策」「市民と市民のつながり」「街と町のつながり」等々の活動に広がっていく、というような風景が目に見えてくる爽やかな事業発表でした。しかし、この活動がどのような方向に向かうのかが抽象的で見えてきませんでした。色々な方向があると思います。ひとつには「商工会、町内会」を巻き込んでいく形の「街づくり」、もうひとつには市民活動の結果としての「街づくり」が思い浮かびます。他にもあると思いますが、その方向性を模索することが具体的な今後の活動において必要だと思います。
- 事業名称が表しているように、コミュニティをよく意識した事業展開になっている。その上で、特筆される点が2点あった。

ひとつは、“まちの映画館” というフレーズが示すとおり、地域における映画上映を繰り返して、地域での実践の積み上げということを大切にしてきた点である。特に、シネマコンプレックスの出現が見られるようになった一方で、商店会との関係づくりを進め、まちおこしの意味合いも持たせ、地域の活性化が図られているように、その取り組みが成功している点が評価に値する。

2点目は、地域での実践の積み上げをつうじたまちおこしという成果を、県内の市町村を回って広めていっている点である。このことは、ひとつのNPO団体だけではなかなか困難なことであり、埼玉県と協働したことで現れた成果であると言える。

さらに、まちおこしの取り組みをとおして、地域における文化の創造にもつながっている点も評価できよう。
- NPOと行政が互いに力を出し合ってひとつの事業を実施するという協働事業にふさわしいテーマ設定であり、活動報告の内容やそれぞれの事業評価からも、協働事業の成果や今後の継続性、将来性が期待できるものである。
- コミュニティシネマを各地元の商店街や関係団体を巻き込み正にコーディネートしながら進めてきたNPOならではの力量や実績は大いに評価したい。協働提案事業の趣旨、目的に沿う事業であった。
- 活動が、県内の各地で地元の方々に支持され、根付いてきていることがよくわかりました。映画館に行って映画を見る時のワクワク感は、日常の中にあるテレビとは全く違う経験だと思います。難しいことではと思いますが、何か付加価値を付けるのかどうか、など、経営的にも事業が上手くいくよう、模索を続けていただきたいと思います。なお、協働事業を行う上でのNPOと行政の役割がもう少し明確になっていた方がよいのではと感じました。